

令和3年度 知識集約型社会を支える人材育成事業審査結果

大学名	名古屋商科大学	整理番号	9
メニュー	メニューⅢ インテンシブ教育プログラム		
事業計画名	ケースメソッドを補完するフィールドメソッドを活用した学外連携型の教育システムとアントレプレナーの養成		

[採択理由]

本事業計画は、従来からの先進的な取組としてのケースメソッドに加え、海外のビジネススクールの動向を踏まえて、「フィールドメソッド」の手法に基づいた改革によるアントレプレナーの養成を図ろうとするものである。質と密度の高い学修を各学期で実現するため、四学期制の枠組において、科目の統合が積極的に図られ精選された授業科目の週複数日実施が計画されている。統合される科目については、統合前科目の内容を含めて、その狙いや期待される教育成果が丁寧に説明されており、2年次3学期、3年次3学期を中心にしたインテンシブな教育プログラムの配置も適切である。最終的には、所期のアントレプレナー育成に向けた制度設計がなされているものと評価できる。

学修成果・教育成果の把握・可視化についても、AOL (Assurance of Learning) 委員会を設けて実施体制が整えられており、教員が行う直接評価（「LG 到達度評価」）と、学生が行う間接評価（「学士力自己評価」「授業評価」）の双方が組み合わされて適切な枠組が構成されている。全般的に良く練られた事業計画であり、本事業の趣旨にも概ね合致しているものと評価する。科目内容や担当者の調整から科目の統合と運用には困難が伴うものと推察するが、それも具体的な計画が打ち出されている。今後は、科目の形式的な結合に留まらない、真の意味での統合を期待したい。商学系科目は専門知識の修得が大きな要素を占めるので、インテンシブ教育との親和性が高いと思われるが、今後、教養系科目や他学部への普及を考えると、どのような手立てが講じられるのか注目したい。

また、本事業計画は、当該大学において昨年度定められた全学的な教育指針としての「教学マネジメント基本方針」とつながっており、学長を中心とした運営体制も、インテンシブ教育プログラム実施体制が設けられることにより、十分に確立されている。また、外部評価としてAACSB (The Association to Advance Collegiate Schools of Business) 等の国際認証機関による評価を受けていることは高く評価できる。さらに、「フィールドメソッドハンドブック」を作成し、全国の大学への配布を計画するなど、他大学への成果の波及が期待できる。